

2006 年 2 月 20 日

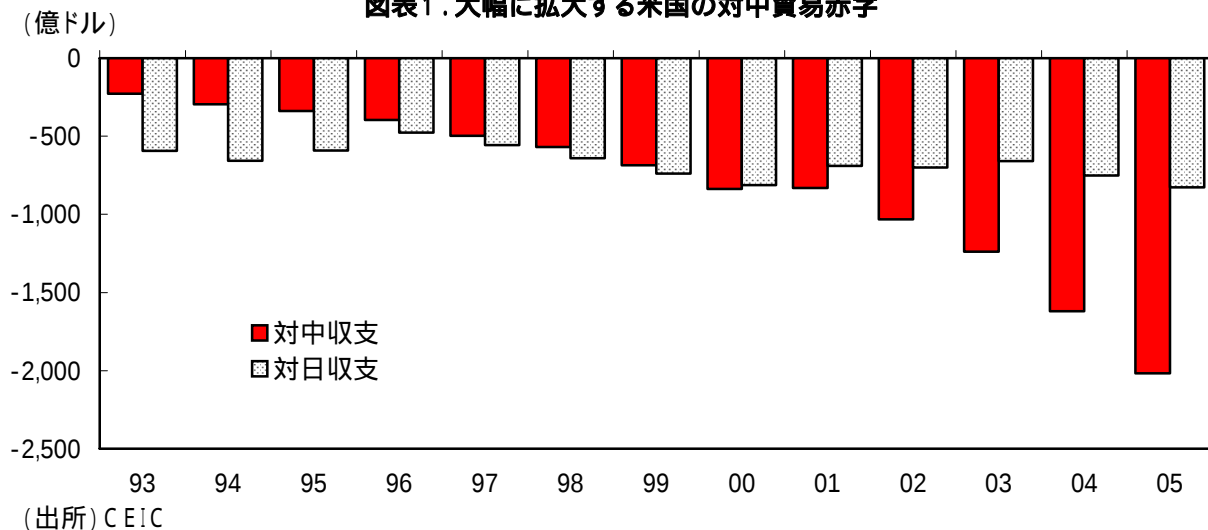
2 千億ドルを超えた中国の対米貿易黒字

～ 「世界の工場」 vs. 「世界の市場」、米中貿易不均衡の行方 ～

対米貿易黒字拡大で懸念される米中貿易摩擦の再燃

- ・ 米国商務省の発表によれば、2005 年の米国の対中貿易赤字（＝中国の対米貿易黒字）は前年比 24.5% 増の 2016 億ドルと 2 千億ドルを上回った¹（図表 1）。今や中国は米国にとって最大の貿易赤字国である。今年秋に中間選挙を控えていることもあり、今後、米中間で貿易摩擦の再燃が懸念される状況である。
- ・ 70 年代から 80 年代にかけて日本の対米貿易黒字の拡大を背景に激化した日米貿易摩擦では繊維から始まって鉄鋼、カラーテレビ、自動車の各産業が次々に輸出自主規制に追い込まれた。米中間でもこうした展開となる兆しはある。05 年に繊維輸入割当規制が撤廃されると中国の対米繊維輸出が急拡大。危機感を募らせた米国国内生産者からの訴えで米政府は緊急輸入制限を発動。最終的には、中国が輸出自主規制に応じることで事態の打開が図られている。

図表 1. 大幅に拡大する米国の対中貿易赤字



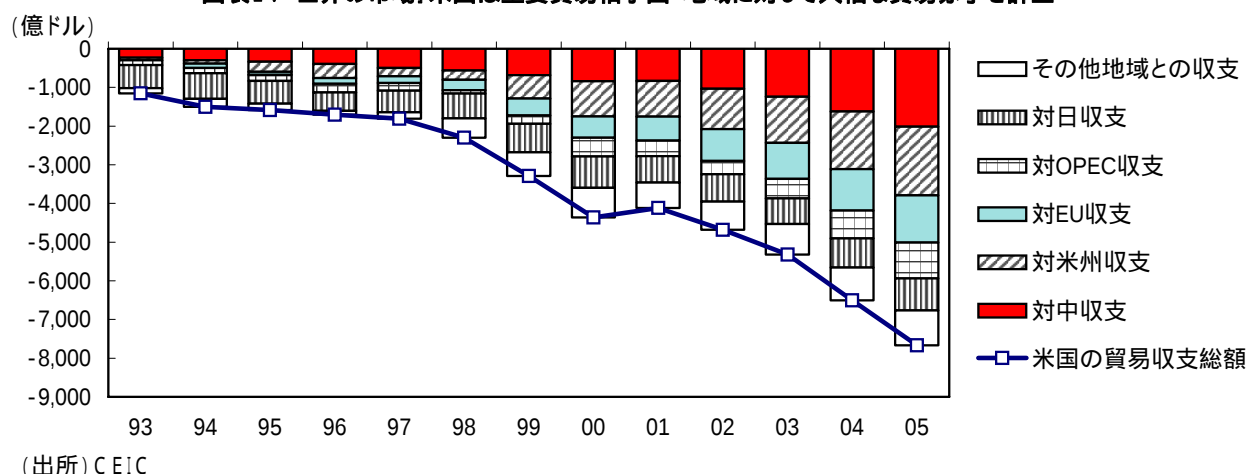
2 千億ドル超の対中赤字も米国の貿易赤字全体の約 4 分の 1 にとどまる

- ・ ところで、70 年代から 80 年代の日米間の貿易不均衡と今日の米中間の不均衡には実は 2 つの大きな相違点があることに留意する必要があるだろう。
- ・ 第 1 点目は米国の貿易赤字に占める対中貿易赤字の割合が 2 千億ドルを超えた 05 年時点でも 26% にとどまっている点である（次頁図表 2）。

¹ 中国の貿易統計では、2005 年の中国の対米黒字額は 1 千億ドル余となっている。米国統計との差異は、米国統計では中国の香港経由の対米輸出も中国からの輸出として計上されるなど、統計上の取扱いの相違による。

- ・ 日米貿易摩擦が深刻化していた当時、米国の赤字に占める対日赤字の割合は年によっては 50%を上回っており、日本の輸出自主規制は対日赤字削減を通じて米国の貿易収支そのものを改善する効果をもっていた。しかし、今日、総額 7668 億ドルもの貿易赤字を計上する米国は、中国以外に米州地域、EU、日本などに対しても大幅な赤字を計上している。これは米国がいわば「世界の市場」として世界中から製品を購入しているからである。こうした状況では、たとえ中国が輸出自主規制を拡大したとしてもその効果は限定的であり、米国の貿易赤字が大幅に改善されることは期待できない。

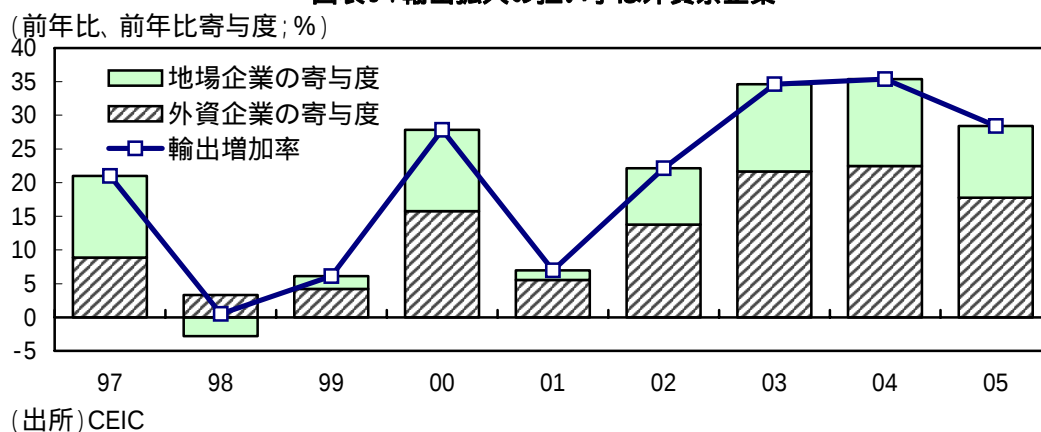
図表2. 「世界の市場」米国は主要貿易相手国・地域に対して大幅な貿易赤字を計上



中国の輸出拡大の中心的な担い手は外資系企業

- ・ 第2点目は、中国の場合、輸出を拡大して貿易黒字を稼ぎ出している主体が外資系企業である点である（図表3）。これは低コスト優位性に魅かれて米国をはじめ世界中の企業が中国に進出して工場を建設、中国が今や「世界の工場」として世界各地に製品を供給する役割を担っているためである。そしてこのことが結果的に中国の貿易黒字拡大につながっているとすれば、輸出自主規制は、対中貿易赤字削減にそれなりの効果があるかもしれないが、その一方で中国に進出している米国企業その他の利益を損なう可能性もあり両刃の剣と言えよう。

図表3. 輸出拡大の担い手は外資系企業



米中貿易不均衡解消の切り札は中国の内需拡大に

- ・ 米国経済は今年も堅調に推移すると見られるが、そうした状況下では今日、いわば世界経済システムの中に組み込まれた感のある「世界の工場」と「世界の市場」の間の貿易不均衡が大きく改善する可能性は小さいと思われる。
- ・ 両国間の不均衡が是正される可能性があるとするれば、ひとつは中国が米国の「工場」で生産している製品の購入を大幅に拡大することであろう。昨年も中国の航空機購入が話題となったが、今年はこれに加えて医薬品などの購入も拡大するかもしれない。しかし、2千億ドル超の赤字を埋めるには力不足と言えよう。
- ・ もうひとつの可能性は米国に取って代わるとはいかないまでも、これを補完するような市場が見つかることだろう。日本や欧州など先進国の景気回復が期待されるところだが、実は中国政府が第11次5カ年計画で推進しようとしている内需拡大、すなわち、中国の「市場」としての役割拡大が米中不均衡解消の切り札なのかもしれない。

調査部 野田麻里子(mariko.noda@murc.jp)